

## 萩原雄祐先生と超高層物理学

永 田 武

私達、超高層物理学、電離層物理学あるいは電波科学を勉強してきた日本の研究者仲間は、故萩原先生に何かと可愛いがっていただいたり研究面で甚大な応援をしていただいたりしたのみで、叱られた記憶が全くない。専門の天文学、あるいは天体物理学方面の方々の中には、多分たまには萩原先生に叱られた人々もいるに違いないと思うにつけ、我々にとって文字通り誠に有難い先生であったと感謝している。

終戦直後のあの公私共に生活の苦しかった時に、電離層研究委員会が発足し、その後4分の1世紀にわたって、この方面の総合研究を活発に継続発展させることが出来たのも、グループの中心に萩原先生がおられたからこそだと信じている。我々に対して、極めて開け広げの応待を下された先生の御性格というか、御人徳の故もあったであろうが、先生御自身の学識と業績を、周囲に集る者皆が衷心より尊敬し、信頼して、先生を中心に団結したのが最大の理由であると思う。天体物理学者はもちろん、宇宙線物理学、地球物理学、電波工学等各方面の研究者達が一堂に会して、活発な学問的討論をし、又有意義な共同研究を実施し得たのも、萩原先生が中心におられてはじめて出来たことだと思ふ。天文学方面の方々から、あるいは異議が出るかもしれないが、私は「萩原雄祐先生は我が国の超高層物理学の生みの親である」と断言してはばからない。

私自身が東京大学を離れてからは、萩原先生にお眼にかかる機会はめったになかった。しかし、東大在職中は少くとも週に1回はお目にかかって雑談するのが常であった。ちょうどあの“天体力学”の大著を執筆しておられた時期であったので、話題が天体力学書の問題になることも少くなかったが、我が国の現状を中心として宇宙空間科学の全般にわたる場合も時々あった。電離層研究委員会の時代もそうであったが、宇宙空間物理学といい、又天体力学の集大成といい、萩原先生が学問に対してあんなにまで強烈な情熱を、しかも長い年月を通じて、持ち続けられて来たことに対して、私はただ驚嘆するのみである。私も学問は好きな方であるとひそかに自負してはいる。然し、萩原先生のような、学問に対する純粹で強烈な情熱を生涯持ちつづけることは、私には到底不可能であると既にあきらめている。この意味においても萩原先生は、私達とはレベルの違う偉い先生だと尊敬しつづけてきた。

その純粹で偉い萩原先生が、必要だと思ふ学術分野の進展の為に、並々ならぬ学術行政的努力を重ねられたという事実は、私にとって、別の種類の驚きである。東京天文台の拡充整備や、岡山天体物理観測所の新設等に大変に骨を折られた物語は、誰かかその方面の専門の方が

記されることであろう。私は、戦後我が国が「国際電波科学連合」に復帰することに萩原先生が非常な努力をされ、我が国の学術界がほぼ完全に国際復帰する迄の期間、自らが電波科学国内委員会の長として面倒な仕事を続けられた事実を書き残しておきたい。この件については、私自身が萩原先生の命を受けて、あちこち走り使いをしてお手助けをしたからである。戦後、国際学術連合傘下のユニオンに、日本の各対応委員会が順次、復帰する頃になっても、我が国の国際電波科学連合への復帰はなかなか実現しなかった。ちょうど電波天文学が隆盛になり始めた時期であった。その意味で故畑中武夫君の進言があったかもしれない。一方では、先生を長とする電離層研究委員会の研究活動は正に花盛りの盛況で、新事実の発見がつづいていた。おそらく電波を媒介とする宇宙地球自然現象の研究進展の緊急性を痛感されたのであろう。萩原先生は異常な熱意を以て、国際電波科学連合への復帰運動に国内的にも国際的にも努力を重ねられた。萩原先生は仕事の遂行に際して、時に気短かというか、せっかちになられることを御存知の方も多いであろう。この件に関する限り、私は先生の御指示に追いまくられ、又時に御叱言をちょうだいした憶えがある。萩原先生の国際的知名度と先生御自身の努力の結果、我が国の国際電波科学連合への復帰はそれから間もなく実現した。萩原先生は我が国電波科学再建の親と言っても過言ではあるまい。

萩原先生が逝去されてしまいたいま考えてみると、私はどうも先生に甘え過ぎたような気がしてならない。強く叱られたことがないのもその一因であろう。然し、戦後、地球の電離圏や磁気圏の研究推進に際して、私自身をも含めて日本の研究者が、何がしかの研究業績をあげて来られたのは、一方では萩原先生から強い鼓舞、激励をいただけたと同時に、他方では多少の甘えを宥して下さった先生の温情にも由来すると思われてならない。厳正な学問と、学問への情熱とだけでは、電離層物理学の黎明期から、その研究がほぼ大成して、地球電磁圏の総合研究にむかって発展的解消するまでの長い長い年月、電離層研究委員会という一研究集団の活動と和とが、あれほどまでに高く強く保たれる筈はないと思われるからである。

萩原雄祐先生は、我が国の天文学界にとって近來の傑出した偉人であられたのは言うまでもないことであろう。その上、私達にとっては、超高層物理学、あるいは太陽地球間物理学の生みの親、育ての親にあたる。このような良き師、良き大先輩に恵まれ得たのは私達にとって大変な幸せであった。先生の御逝去に際して、私達は長年にわたるい指導に対して心から感謝の意を表したい。